



マーケットの学校inそうかって??

草加市が主催する「マーケットの学校inそうか」は、「このまちにくらすよこびを、もっと」をテーマに背景が異なる様々な人たちが集まり、自分たちの暮らし、そうかのまちのことについてマーケットを主題に話し合う対話型ワークショップです。このまちで楽しみを見つけたい、なにか繋がりをを見つけたい、自分もやってみたいことがあるなど、動機は皆それぞれですが、対話を重ねる中で気づきや発見をしていきました。

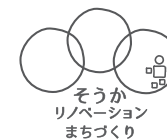


実践マーケットについて

マーケットの学校inそうかの中で自分達のやりたいことを形にしたマーケット(実践マーケット)をこれまでに2回開催しました。1回目は「マーケットのある暮らし」をテーマに対話を進めていき、2023年3月に草加駅前にある大型商業施設の店頭スペースを活用し、駅前の風景の中に「顔の見える経済を駅前で」をつくり出すチャレンジをしました。

2回目は「マーケット×私(個人)」「マーケット×ケア」「マーケット×企業」など幅広いテーマで対話を重ねていき、2023年12月に「まつばら綾瀬川公園」で開催しました。

出店者同士の助け合いや出店者と来場者の一体感を感じられるマーケットを実現できました。



そりまレ vol.07

私の「色」が見つかるまち
マーケットがある暮らし



WHAT'S A MARKET?

マーケットってなに??

この冊子での「マーケット」は伝統的な祭りやフリーマーケットとは異なり、屋外空間に個性を持つ仮設の店舗が集まり、誰でも自由に来て、生産者のストーリーを知りながら自分の好きなものを買える場所のことです。

「マーケット」は、地域の魅力がたくさん詰まった場所であり、地域と繋がる場所、そして実は地域に貢献できる場所でもあるんです。

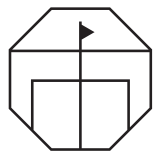
地域の農園でつくられている野菜や今まで知らなかったパン屋さん、レストラン、お菓子屋さん、そしてハンドメイドやクラフトのお店など、その場所へ行くだけで地域の魅力あるお店と出会えます。そして、そのお店の方の人柄や商品をどう思うかという想いでつくっているのかなども知ることができます。

草加にはたくさんのマーケットが生まれつつあります。マーケットはそれぞれのマーケット運営者と一つひとつの店舗、一人ひとりの出店者でつくられています。個々の店舗は地域のニーズを反映しているので、集まるとその地域の日常の営みがビジュアル化され、そこにしかない景色が現れます。その景色はマーケットごとに異なり一つとして同じものはありません。それがマーケットを訪れる一つの楽しみでもあります。

ぜひ、興味があるマーケットへ足を運んでみてください。マーケットを舞台にまちの中に好きな店ができたり、出店者との交流が生まれたり、新しい発見があったり、自分の居場所になったり仮設空間から生み出されるたくさんの豊かな可能性を暮らしの楽しみにしてください。

きっとあなたの好みに合うマーケットが見つかると思います。





ツナグバイチ
つなぐ八市

どんなマーケット？

「つなぐ八市」は、新田の八幡町にある「シェアアトリエつなぐば」が主催のマーケット。出店者同士が協力し合いながら、準備や片付けを行うのが特徴。



想い

私は草加市生まれ草加育ちで、今も草加に住んでいます。元々は県内の印刷出版会社に勤めていました。会社員時代に結婚・子育てを経験し、産休と育休も取りました。仕事は楽しくて大好きだったんですが、時短勤務になると仕事を中途半端な時間で終わらせないといけないことも多くて。通勤に時間がかかることもあり、モヤモヤした気持ちをずっと抱えていました。

モヤモヤを抱えた時の私のリフレッシュ法は親子で行けるカフェに行くことでした。けど、草加にはそうした場所が当時はなくて…。いつか草加にそういう場所をつくりたいという気持ちが芽生えました。そんな折、仕事と子育てに追われる中、市が開催する「わたしたちの月3万円ビジネスin草加（以下、3ピズ）」のチラシを見つけたんです。そこに「やりたかった

ことは、今やれることに変えられる」というフレーズが書かれていて、このフレーズを見て「親子カフェをやりたい！」という気持ちが高まり、3ピズの受講を決めました。3ピズの受講をしている最中、八幡町で子連れで働ける「シェアアトリエつなぐば」がオープンするのを知りました。「私もそこで働きたい！」と思い、そこからつなぐばで働くことになりました。

つなぐ八市は、「日常にあるマルシェ」をコンセプトに、地域の人に楽しんでもらうマーケットです。つなぐ八市の特徴は毎月継続して開催するために、運営側が負担にならないよう出店者が協力しながらマーケットを作り上げていることです。出店者同士が顔の見える関係にあって、自然とマーケット全体で温かい雰囲気が生まれています。

訪れるお客さんも出店してるお店でご飯や飲み物を買って、レジャーシートや簡易テントを持ってきて、キャンプのように過ごす光景も見れたりして、地域で楽しむことを目的に来てくれる方も多くいらっやして、すごくいいマーケットだなと感じます。今後も継続して開催して、日常に根付いたマーケットにしていきたいですね。



運営 福澤博子さん



ナカマチマルシェ
なかまちマルシェ

どんなマーケット？

手代町中町自治会に所属する有志のイベント実行委員が企画・運営する、地域でたのしむマルシェ（マーケット）。



想い

私は生まれも育ちも草加の手代町で、今は実家建て替えて二世帯で暮らしています。所属している手代町中町自治会では、昔から「秋まつり」というイベントがあり、学生の頃は出店のお手伝いをしていました。自治会のみんなからは「あきちゃん」と呼んで可愛がってもらっています。

そんな秋まつりですが、自治会の高齢化で開催できなくなってきて。そうした中、自治会で「今、出来ることで何か新しいことをやろう」と言う話が出たんです。ちょうどその頃、シェアアトリエつなぐばでおかし係やつなぐ八市に関わっていたのもあり、「あきちゃんは何かやっているらしいよ」という話になり私に白羽の矢が立ちました（笑）。私に何が出来るかなと考えた時に「マルシェなら経験もあるしできるかも」と思い立ちました。自治会のみんなも何かやりたいという気持ち

があり、つなぐ八市のように出店者さんと自治会が協力し合うことで、なかまちでも開催できるのではないかなと思ったんです。

マルシェをやると決めてからは、仲の良いママ友たちと相談しながら、準備を進めていきました。大切にしたのは、自分たちも楽しむこと。運営で自分たちが楽しめなくなるのではなく、来てくれる人だけでなく、マルシェに関わる人みんなが楽しめる場にしたいと思いました。準備期間は3ヶ月しかなかったんですが、短い中で私たちのやりたいこと、自治会のやりたいことをたくさん詰め込んだマルシェになりました。自治会のみんなも協力的で、「フランクフルトやりたい！」「わたあめやりたい！」なんて話も挙がって、秋まつりの良さも取り入れたマルシェになりました。これからもなかまちマルシェは、関わる人がみんな楽しめるマルシェにしていきたいと思っています。



運営 中田亜希子さん



ハートランドマーケット マツバラ-ソウカ
HEARTLAND MARKET
matsubara-soka

どんなマーケット？

「HEARTLAND MARKET matsubara-soka」は、草加在住、獨協大学出身でサウナが好きな金谷裕一さんが中心となり松原団地記念公園で開催するマーケット。



想い

私は元々教員を目指していましたが、大学生時代のバイトで高知県大豊町のラッキー農園さんに会い、農園の方の人柄と生産されるショウガに魅了されて卒業後はショウガ販売の出店者として首都圏を中心にさまざまなマーケットに出店してきました。そこで多くの魅力的な出店者と出会いました。大学時代から草加に住んでいましたが、草加の印象は「ベッドタウンでなにもないまち」でした。ですが、あるきっかけで草加市産業振興課がマーケットの学校を開催している情報を得て、2022年度、2023年度に参加しました。参加してみると、草加にはおもしろい人達がたくさんいて自分も草加でなにかできると思いました。

そこで出店者としてつながりがあったつくば市の出店者の方々に色々と教えていただき「HEARTLAND MARKET matsubara-soka」を主催・運営することができました。このマーケットは心と心、出店者と出店者、出店者とお客、地域とマーケットが繋がることを目指しています。出店者一人ひとりの人柄を知ってから出店してもらっているのが、出店者同士の輪もでき、来場者にも居場所と感じてもらえる温かいマーケットになっています。草加ってせんべいもあるし、サウナもあるし、マーケットもあるよねという印象を持ってもらえるように頑張ります！



運営 金谷裕一さん



ピクニグッドソウカマツバラ
PICNIGOOD
sokamatsubara

どんなマーケット？

「PICNIGOOD sokamatsubara」は、獨協大学前<草加松原>駅西側エリアにある松原団地記念公園で行っているマーケット。
(共催：東武鉄道株式会社、企画運営のサポート：株式会社HITOTOWA)



想い

「PICNIGOOD sokamatsubara (以下、PICNIGOOD)」は、かつて「東洋一のマンモス団地」と呼ばれた松原団地の建て替えを契機として、生まれ変わりつつあるまちを、さらに楽しく、コミュニティ豊かなものにしていくためのプロジェクトの一環として、2023年3月にスタートしました。

PICNIGOODでは大切にしている合言葉があって、それは「たのしいことは、持ち寄ろう」です。地域に住まう人や働く人、老若男女さまざまなメンバーが運営に関わっているのですが、作戦会議の中で各々が「こんなことやってみよう」と企画を色々持ち込み、チームで実現していくことが特徴の一つでもあります。公園に集まって過ごす1日が楽しくなるような工夫を考えていて、素敵なものを作る・買うだけではなく、公園で遊ぶ人たちと一緒に、みんなで作っていくマーケットにしていって、コミュニティのハブとなるもの

にしていけたらと考えています。

PICNIGOODは準備段階から、多くの人に関わってもらいました。地域の方との会話からアイデアをもらったり、当日使用する什器や装飾を作るワークショップを開催したり。広報も自治会や地域の方の力を存分にお借りして実施したりと、「みんなで作る」というのを大事にしてきました。今では準備に関わってくれた人たちが運営メンバーになってくれたりもしています。今後も日常の延長線上にあるようなマーケットを目指したいなと思います。いつも行く公園だけど、PICNIGOODが開催されているとちょっとした楽しみが見つけれられて、誰かの日常をちょっとでも豊かにするものでありたいと思います。今後も関わるメンバーみんなで力を合わせて、楽しく運営して、長く愛され続ける場として育てていきたいです。



運営 PICNIGOOD sokamatsubara実行委員会